

資料名：新宿区文化芸術振興会議（第5回）議事 要旨

■日時 平成24年3月30日（金） 午後1時30分から午後3時30分まで

■会場 新宿区立新宿歴史博物館講堂

■出席者

委 員：高階会長、垣内副会長、星山委員、高取委員、乗松委員、松本委員、
大和委員、小口委員、佐藤委員、舟橋委員

事務局等：加賀美地域文化部長事務代理、山田文化観光国際課長、鯨井新宿未来創造
財団等担当課長、石塚文化資源係長、原文化観光国際主査、北見主任、楠
原主任

■欠席委員：石丸委員

■議事の進行

1 開会

- (1) 高階会長が振興会議の開会を宣言し、開会した。
- (2) 高階会長から、本日の主要な議事は、前回会議の後、11月30日まで開催された「新宿フィールドミュージアム」の更なる可能性を議論するとともに、「新宿区文化芸術の振興に関する懇談会報告書」の提言実現に向けた平成23年度の取り組み状況を確認し、推進会議として、平成22年9月から2か年の活動実績を報告書として取りまとめるための議論を進め、その報告書のイメージの共通認識を持つことであることの確認を行った。
また、本日の進行について、次第に沿って進行すること及び審議を効率的に進めるため、次第の議事（1）から（5）までを一括して審議することを確認した。
- (3) 事務局より資料の訂正があり、次第のタイトル部分にある「(案)」を削除し、正式な次第とすることが確認された。

2 議事（要旨）

- (1) 第4回会議内容の確認について
議事概要、議事要旨に基づき、第4回会議の内容の確認を行い、資料のとおり承認を受けた。
- (2) 振興会議の運営（進め方）について
資料2に基づき、第4回会議から第5回会議までの進捗について、垣内専門部会長が報告を行い、資料の詳細は事務局が説明を行ったが、特に質疑はなかった。
- (3) 新宿区文化芸術の振興に関する懇談会報告書の提言と提言実現に向けての平成23年度取組状況について
資料3に基づき、懇談会報告書に記された28項目の提言書について、垣内専

門部会長が第4回会議以降の取組み状況の報告を行った。資料の詳細は事務局が説明を行ったが、特に質疑はなかった。

(4) 振興会議独自の調査審議事項「新宿フィールドミュージアム」について

資料4-1から資料5までに基づき、垣内専門部会長が説明を行い、資料の詳細は事務局が説明を行った。なお、①から④については時間を有効に活用するため一括して説明した。

(5) 振興会議（第1期）活動報告書作成イメージについて

資料6に基づき、議事（4）と併せて、垣内専門部会長が説明を行い、資料の詳細は事務局が説明を行った。

(6) 意見交換

- ・28項目の提言について、こうやって改めて見てみると、随分多岐にわたっていき、これだけのものを着実に取り組み、その取組みが進んでいるという印象。
- ・資料では、学校教育における美術鑑賞教室を39校実施とあるが、実際には29の小学校プラス6の中学校なので35校である。
- ・これは教育委員会事務局と、それから現在、受託している新宿未来創造財団で、何でそうなっているのかをフォローしていただいたほうがいいかと思う。
- ・せっかくなことをやっていて、文部科学省や文化庁なども見学にまで来ているので、大変残念なことだと思う。
- ・新宿フィールドミュージアムについては、よく試行実施として、短期間に準備してやったと思う。
- ・秋になると美術館や博物館ではいろいろなイベントが行われるが、新宿歴史博物館とか、新宿未来創造財団に事務局をお願いして、文化月間の本番10月に入る前の、9月に、各施設、各館で協力して、美術鑑賞や歴史の鑑賞などをやっていきたい。
- ・美術鑑賞などを手軽に気軽にやりたい、または、今まではそういうことをやりたいと思いつつも、いまいち腰が引けたとか、参加してこなかった、そういう方々に対して、わかりやすく、楽しい情報を提供して、10、11月の文化月間中にも繰り返し、自分なりに選択をして楽しむというような、何かプラスアルファの楽しみがあるキャンペーンをやってもいい。2年目の本事業の活動には、そんなことを提案したい。
- ・参加団体のアンケートだけでなく、ぜひ来年に向けては、区民目線、参加者、鑑賞者の視点、区民の視点で、このフィールドミュージアムをどのように楽しんでいくか、どんなものであってほしいか等や、情報提供、その他さまざまなことを、区民目線で整理したい。
- ・区民目線でアンケートをとったり、いろいろな経験、体験談を集めたりというような形で、2年目にそれが大きな1つの柱、大方針として加わってくると、さらにこのフィールドミュージアムがよくなるのではないかな。
- ・実際にやってみて、初年度を終わって、こういう流れが定着するのには、どうしても最低3年はかかるだろうというふうに思っている。
- ・1年目は本当に時間がなかった中でやってきたので、ことしの課題はやっぱりスピー

ド、早い着手ということが絶対に必要だと思う。

- たぶん個々の事業も、この時点になると次の年の事業はもう固まっているので、3年先の、再来年度の事業を準備している段階にいろいろ仕込まないと、もう間に合わないということがある。2年目はスピード感を持って実現の準備をして、あと並行して3年目の種も植えていくというようなことが必要なのではないかな。
- 参加者全部にアンケートをとるとなかなか大変なことがあるので、会議の中でも区民レポーターみたいに、何人かでやってもらって、複数のイベントを見てもらって、何かいろいろな発信をしていただく等ができればいい。
- 文化月間のフィールドミュージアムと、もう1個の歴史探訪型のフィールドミュージアムがあって、ここら辺の兼ね合いをどう整理すればいいのか。歴史探訪型のほうは、どちらかというと文化財ということなので、たとえば能楽堂が入っていて、末広亭が入っていて、「神楽坂をどり」のようなものが入っていて、うまい組み合わせが整理されるといい。
- レガスはいろいろ実際の事業をやっているが、レガスなりに蓄積されている部分もあると思うので、レガスのやってきたことの蓄積をこのフィールドミュージアムでやっている事業に、開放する等、そういう関係づくりを考え始めたほうがいい。
- 新宿文化センターは、もうちょっと蓄積したノウハウを地域の文化団体に開放することと、逆にレガスないし文化センターは専門性をある程度取り入れるということを考えて、このフィールドミュージアムみたいに開かれた構造ができたのを契機に、もうちょっとうまい関係が何かできないかな。
- ガイドブックがああ短期間で本当に立派な、非常に魅力的でインパクトの強いものができて、ハンディサイズで大変活用ができたのではないかな。
- 神楽坂まち飛びフェスタの「坂にお絵描き」については、もう既に24年度の取り組みとして、準備から入っていこうという取り組みになっている。そういう連携を図りつつある。
- 総合芸術高校では、今年度までは文化月間にぴったりと2つのイベントがあったが、これは震災の影響もあって、本校舎の新築が4カ月遅れたという中でのこと。本来は、9月が1つの文化的な行事の山場というのが普通、高校のあり方であり、今度は文化祭が9月22日、23日なので、10月から1週間早いが入り口、プレイベントというような形で紹介してもらえれば、これから文化月間が始まっていくのだと表現できる。
- もし開会のイベントをうちのほうで何か考えるということであれば、またそこも1つ検討したい。
- 新宿駅西口のプロムナードギャラリー展は、次回は5月までさかのぼってしまったので、これをフィールドミュージアムに絡めるのはちょっと無理だろう。
- 参加したお客様からの意見の収集について、共通質問事項というか、項目をこの会議である程度絞りながら、2〜3項目を各団体のアンケートに加えることによって、フィールドミュージアム共通の傾向が探れるのではないかな。そういった取り組みをぜひ検討していければいい。

- アンケート方法について、企業メセナ協議会というところで、いろいろ調査をしてきているが、その中にエピソード評価という名前をつけた調査方法がある。
- 具体的に定量的に何かをとということではなく、文化的なイベントがなされたときに、そこで担当者や、お客様がどういう行動をとったか、あるいはどういうことを言ったのかなどのエピソードを簡単にまとめてほしいというような、あまり形にとらわれずに何か心に残ったことをとにかく書いてくださいという、そういうやり方で集めてやる調査方法である。
- エピソード評価をやると、そのときにとても印象に残ったことというのが拾い出されてくるので、意外にイベントなり、文化的な活動というものが、どういうふうに効果があったのか等、現象だけではなくて、その人にどういう影響を与えたのかということまで表に出てくる。ぜひそういうやり方も検討してみたい。
- 定量的にやるとグラフになって、円グラフだったり、棒グラフだったりがあって、それはそれで意味があるが、エピソード等の何か具体的なことが出ると、こういう話があったかとクローズアップされてくる。
- PR方法については、やはり一般の方へのPRというのが非常に重要だろう。
- 新宿フィールドミュージアムというもののイメージ、あるいは意義というものが定着したり、浸透したりさせていくためのPRをどういうふうにするのか、繰り返しなぜやるのかを検討し、そういったPR方法を繰り返し考えていくことが必要だろう。
- これから2回目、3回目になったときに、どう発展させていくかということ、発展させていくためには、コーディネーションしていく中核的な事務局のような役割が必要である。
- 組織のあり方や運営のあり方、あるいは財政の状況等を考えていかなければいけない。
- 協議会というのが発足をして、その活動の中にPRなどが役割として入っていくとなると、協議会というものがどう成り立っていて、そこにどうお金が集まってきて、その中で主体的にだれが、どのように意思を持って回していくのか。
- 新宿フィールドミュージアムをネタにして、企業がビジネスを広げていくきっかけにもなると思う。
- そういう企業の活動をうまくこのフィールドミュージアムの中に誘致するという、そこもまたコーディネートの問題だと思うので、いろいろな意味で仕掛けを考える組織のようなものが重要になってくる。
- 企業等を誘致する活動、たとえば協議会が広告的な、あるいはモデル的なことを考えるとすれば、各イベントの主催団体は集客やプロモーション的なことを当然だと思うので、協議会の動きとしてはもう少し広告的なというか、広くイメージをどう定着させていくかということ、むしろマスメディア対策などを検討したほうがいい。
- すぐには難しいかもしれないが、PR方法としては、一般の方だけでなく、いろいろな文化関連の企業があるだろうから、そちらにも今後いろいろ働きかけていく。そのことが実際の協議会運営なり、財政的な基盤の充実にも役立つかもしれない。
- 外から来る人だけでなく、区民として働いている人に対しても、企業活動の非常にいいPRになる。
- 当然文化事業の団体やその関係者は文化的なイベントに参加する。そうでないところ

も巻き込むことがうまくできてくればいい。

- 協議会のアンケートを読んだが、やはり区民の人の意見があまり入っていないというのは、少し残念な気がする。
- こういう協議会ができて、団体同士がいろいろ提携をしたりということで、来年はもっと連携することによる、今までとは違った何かおもしろいコラボができたりするのではないかと期待をした。
- 毎年ジャンルごとにテーマを決めたら、このフィールドミュージアムという魅力がもっと増すのではないか。
- 新宿区には商店街の組合みたいなものがあると思う。そういう方たちに話をして、もっとその辺から連携を深めていくことを考えたらどうか。
- 商店街等の組織の方にもご協力いただくというか、一緒になって盛り上がっていくと、もっと身近に感じられるのではないか。
- この間「OH!レガス」という広報紙が新聞に入っていたが、こういう紙面で、今度の秋の文化月間のときでもできればよいのかなと思う。
- この「OH!レガス」を見たときにものすごくインパクトがあり、やはりわくわく感というのが出るのではないかと思った。レガスがやっているということは、協議会でのPR紙としてもできる可能性があるのではないかと思う。
- 新宿区であちこちいろいろなイベントがあるが、文化月間中だけでも土日に、何とかシャトルバスみたいなものが出るとよい。
- 無料バスみたいなものを出すことによって、みんながもっとイベントに行きやすくなるのではないかと思う。
- 私は1カ所しか行けなかったり、ではこれとこれを合わせようと思ったとき、なかなか遠くて行けなかったりというのがあったので、無料シャトルバスのようなものができるといいかなと思う。
- たとえば銀座・丸の内地区のシャトルバスは無料である。線路を越えて丸の内と銀座とを結んでいる。あれは結構、我々も行ったときには便利にしている。
- 墨田区では、スカイツリーがあるので墨田フリー散歩というものがあるようだ。やはりちょっと範囲が広いので、ここは無料ではないが、1日乗車券があったりする。
- スタンプラリーもやっていて、スタンプを集めて楽しむというのもあるみたいなので、こういう工夫も参考にできたらよい。
- フィールドミュージアムの活動は、目を見張る内容だと思う。
- 合唱連盟も参加を検討したが、連盟が主に活動するのは、5月4日、5日から6月9日なので、文化月間の10月、11月とあたらないため、時期の問題で来年度も参加は難しい。
- フィールドミュージアムの文化月間のときにフリーで参加するというのはいいいとして、連盟全体ではちょっと難しい。
- 文化月間でなくても文化芸術の発信はできるわけなので、それで文化月間以外にも発信していくという形でやれるのなら、合唱連盟に参加している各団体の中で、毎年演奏会を開いている団もあるので、そういう団体を参加させて、その期間に合う合唱団をフィールドミュージアムの中で参加させてもらえたらと思っている。

- ・時期的な問題というのは、これは大きい。今までずっと定着しているものならばなおさらだと思う。
- ・イベントのPRもできるので、何か小さなところで参加させていただく等はできると思う。
- ・大新宿区の歌というのがある。まさに、新宿のフィールドミュージアムの紹介をしているような感じである。
- ・フィールドミュージアムのオープニングで歌ったり、そのほかに文化月間にふさわしい歌を何曲か選んで歌ったり、そういう小さいものだったら参加させてもらいたい。
- ・大新宿区の歌というのは、区でも何かやっているか。事業のあるとき等、あいさつのときや正月に歌うということもあるか。
- ・賀詞交歓会、区の成人式などの行事のときや、シティハーフマラソンの除幕式など、そういうイベントのときに歌っていただいている。
- ・フィールドミュージアムのオープニングであったり、区の庁舎のところでイベントがあるときに、そういう場で大新宿区の歌を歌えるのではないかと思う。
- ・それぞれの団体の特色もあるし、従来の歴史も、経過もあるわけで、それをどううまくフィールドミュージアムで、それからそのほかの活動に結びつけていくのかということが考えられる。
- ・対話型美術鑑賞教室の実施が39校中34校ということだが、各小・中学校にはスクールコーディネーターがいるので、そういう方を少し動かして、年度の最初のほうにアプローチをすることで、大分違うのかなと思う。
- ・学校のほうからいろいろな文化的な活動をしたいというオーダーが上がってきたときに、コーディネート充実・強化というところで、地域の人材が学校内に入っているので、教育委員会と協力して、その方を動かしていただくことによって、少し事業の実現が図れるかなと思う。
- ・対話型美術鑑賞教室は、せっかくすてきな行事なのに、実現されていないというのは非常に残念である。実施されていなかったことによる子どもへの不利益というのは、非常に大きい。
- ・新宿フィールドミュージアムについて、参加団体の数、事業内容、オフィシャルガイドブックのカテゴリー分類のことなど、いろいろな課題はあった。
- ・今後の方向性として、新宿内は学校、小・中学校、大学、専門学校などがあるので、今後そういう分野を大きく取り組んでいくとよい。
- ・たとえば区立幼・小学校等は、この時期に展覧会や学校公開などで、自分たちの文化的な活動も発信している。
- ・ポストカードぐらいの大きさで、新宿フィールドミュージアムのロゴがちょっと入っていて、それを見た区民の方に、たとえば、子どもたちに未来のメッセージをくださみたいな形で、メッセージをもらえれば、文化的な区民の思いというのがちょっと吸収できるのではないか。
- ・区民の声を集めるために、簡単な形で区民が参加できるという仕掛けをつくっていったらどうか。
- ・今度のフィールドミュージアムの区民の参加状況や、また経済効果などで、きちっと

した数字を出すことによって、今後、企業誘致や企業等の参加が得られる、利益な空間が生まれるということが正確につかめると思うので、数字をきちんと出すということとは必要である。

- 新宿文化センターはじめ区民施設の利用について、文化月間中は、たとえば区民発信の文化活動に対しては、とても安く利用できる、先押さえできる等、イベントの趣旨がフィールドミュージアムの趣旨と合うなら、使われやすいようにしてもらうことも考えることが必要である。
- 今後の事業内容の見直しとして、各事業が閉鎖的なものではないか、広く区民を対象にしているか、参加しやすいものか、また参加しやすい価格帯・時間帯であるか、運営方法等に無理がないか、また弱者への視点、たとえば生活困窮者や障害者、または年齢等のことでも弱者への視点などがあるかというような、品質保証という視点で、事業内容についてもきちんと見直しを行い、今後3年間で見ていく必要があるのではないか。
- 将来的な方向性としては、区民が持つ地域の人的、物的アイデアを生かして生活圏で文化活動をつくり出して、積み重ねていくことで、地域豊かな、文化豊かな地域になっていくということができるいくといいと思う。
- 今回のフィールドミュージアムは、非常に早い時期に活動が可視化されて、参加団体間のネットワークを生み出したが、私たち区民が主体となって、生活者からの視点の生の声を積み上げていくということではまだまだなので、今後そのような視点も持っていく必要がある。
- 今はどちらかというとスケールメリットや動員、見た目の派手さというような、ちょっとハイアートに近いものがある。
- 今後は、地味で身近な、もう少しコミュニティアートというか、地域を再生していく、または、地域をつくっていくようなアートを積み重ねることで、フィールドミュージアムがちょっと敷居の低いというか、だれでも参加しやすいものになっていくのではないかな。
- 子どもへの視点ということでは、子どもに文化を届けるときには、やはりその間に必ず大人がいて、大人を介して届く。
- たとえば小学校だと、全校配付などでガイドブックを配付していただければ、どんなお子さんにでも確実に届くと思う。
- ぜひ全校配付というか、せめて小・中、区立幼稚園等ぐらいでは全校配付ぐらいの規模でやっていただけるとありがたい。
- 今のガイドブックはちょっとわかりにくくて、あっちこっち行きたかったけれども1カ所しか行けなかったというようなことは、表に出てこないかもしれないけれど、実はあったかもしれない。
- 今のイベントはちょっと敷居が高いと考えている方の、そういう考えもなかなか直接には出てこない。これは重要な視点で、表に出てこなかった点を取り込みながら、フィールドミュージアムを発展させていくということは大変大きなこれからの重要な課題である。
- 特にお子さんたちに関しては、別の世界を持っていると思うので、そこをどうつなげ

ていくか。

- 文化財保護条例が去年かわって、新しい地域文化財というのができたところ。今までの指定文化財や登録文化財が江戸時代から戦前までということであったが、地域文化財は、対象を戦後や高度経済成長期などのそういう記録を残すものも対象にして新しく出てきた。
- 23年度は、末広亭や長谷川平蔵埋葬の地、それから旧近衛家の近衛邸のケヤキや、非常にばらばらのようだが、ジャンルとしては平和であったり、歴史であったり、それから経済発展期の後に残すようなものがある。ことしは、らんぶるという喫茶店を認定している。
- そこを経営している方も古いものを残そうという考えがあり、それはぜひお願いする形で残している。
- ことしも5点ほど認定している。いろいろあって、その中には岡本太郎のオブジェを認定した。
- きょうの資料5にある新宿の歴史を再発見するという、そういったフィールドミュージアムと、この地域文化財の制度を組み合わせることによって、充実させていけるというものだろう。
- ぜひ地域文化財の取り組みをもっともっと集めていってほしい、掘り起こしてほしいと思っている。それは同時に、まち歩き事業やなにかの新しいテーマでつくれるのではないか。
- 新宿区も広いから、地域が離れていたりすると、うまいぐあいにいかないのだろう。そのときはバスで回る等を検討してみたらどうか。
- 戦争や遺跡など、そういうことでも1つのテーマがつくれるので、ぜひこの試みは頑張ってください。
- 地域文化財の場所に表示板を立てられるかどうかという問題があって、指定して簡単に選べというわけにはいかないのだろう。
- 表示板については、区や新宿未来創造財団も努力していただきたい。
- 長谷川平蔵の埋葬の地は行けばわかるようになっているか。特にまち歩き、探訪をやるときに、地域文化財を活用できると思う。
- 資料にある「軍師・剣豪の道をたどる」なんていうのはちゃんとその場所がわかるのか。これも人気があったようだ。時代劇の剣豪かなんか、鬼平もそうかもしれないけれども、おもしろそうなテーマのまち歩きだと思う。
- 歴史を現代までつなげていって。最近では歴史物というのは出版でも、もちろんテレビやなんかの時代劇でも大変興味深い。
- きちんとした実際の人に基づいての新宿区の遺産や、無形のものも、非常に重要なので、こうした文化財をフィールドミュージアムにぜひ加えたい。
- 1年目の新宿フィールドミュージアムは、社会実験的な側面が非常に強いと思う。
- 今度からはそれぞれの団体の年間スケジュールにうまく合わせた形で次年度、あるいは次々年度につなげていけるように、スピード感を持ってやっていかなければいけないだろう。
- マネジメントというかコーディネーションという部分について、これは28項目の提

言の中にあるが、ボランティア等いろいろとたくさんの方々、利害が違う方々が入ってきたときに、その人たちをどううまく必要とところに、適材を配置していくのかというのが、実は非常にお金も時間も多分かかる、また専門性も必要なマネジメントの部分である。

- マネジメントの部分がいわゆる新宿フィールドミュージアム協議会だけ、あるいはその事務局の芸団協と区役所だけでは、人員や資源の制約もあるので、うまく十分に回しづらいと思う。
- 新宿文化センターや新宿未来創造財団のような、ある種のノウハウを持っているところと少し連携をして、マネジメント、コーディネーション機能を強化する必要がある。
- 利用者の方のご意見を伺うということで、普通は利用者調査などをやるが、それを見ると正確なデータをとろうと思うと気が遠くなるような、ものすごくお金も手間暇もかかって、分析も大変である。
- このフィールドミュージアムというプロジェクトを進めるにあたって必要なデータであれば、むしろフェイスブックやツイッター等の双方向で意見を集約できるしくみを使うというのは非常にお金も安いし、魅力的なツールではないか。
- PRとフィードバックとの両方合わせたような形で、ITを使って、SNSを使っていくのがいいので、これはなかなか区役所や芸団協等ではできない部分がある。
- ボランティアの方やレポーターの方等、たとえば新宿には大学もたくさんあるし、総合芸術高校もあるので、そういう方々に各世代の目線に立ってやっていただく、あるいは企業の中で関心がある方が一種の企業メセナとして参加するということのようなことがあってもいいのかなと思う。
- そうすると、いろいろな世代にいろいろなセグメントの意見が、そんなに大してお金も時間もかからずに集められて、PRもできてフィードバックも受けられる、アンケートの意見が勝手に集まってくるような仕掛けをつくっていくというのが重要だと思う。
- 地域との連携という観点から言うと、六本木の地区に、美術館だけではなくて、商店街も入ってきているので、ストリート中でパフォーマンスをやったりする「六本木アートナイト」というイベントがある。
- 何がポイントかというと、オフィシャルガイドブックを持っていくと、レストランでの食事にフリードリンクがつくというような形で、商店街が密接にかかわっていて、そこでは商店街ももちろんいろいろ協力はするが、当然見返りも得ている。
- イベントは夜中にやっているが、無料のシャトルバスがそれぞれ渋谷であったり新宿であったりの主要駅まで、時々走っていて、六本木の夜が怖くなく、しかも楽しめるという形で実施している。
- 今は、SNS等でショップやレストランも、マークやバーコードのようなものは扱っているので、そのノリで参加していただくということであれば、いらっしゃる方が大きな満足というか、心もおなかも、いろいろなところが満たされるので、来年以降はこういったことも考え始めてもいいのかなと感じた。
- こういう社会実験は、結構補助金なんかも出ているので、新宿区だけではなくて、あるいは協議会の方々だけではなくて、外の管理資金のことも考える必要がある。

- そのためには、コーディネーターやマネジャー等、そういう中心に、中核になるような方々に参加していただく必要もあると思う。
- いろいろなところで、まるっとミュージアムであったりぐるっとパスであったり、いろいろなことをやっているが、新宿フィールドミュージアムのように、こんなに大量の、シャワーのようにイベントが降ってくるようなプロジェクトというのは、私は知らない。
- 愛知で研修会があったときに、フィールドミュージアムのガイドブックを持っていったが、皆さんすごく驚いていた。
- このフィールドミュージアムをぜひうまく育てていけば、新宿の強力なコンテンツになっていくと思う。
- 報告書のイメージとして、項目自体はこれで十分だと思う。
- 最近、報告書を読んでもらうということを考えると、最初に結論を書いた方がよい。
- 結論というか、インパクトがある、何をやったかを最初に書いて、「会議の設置や」「活動概要」みたいなことは、資料編に回すという書き方が比較的多くなってきているように思う。
- 要約をつけて、このときはこんなことをやりましたということを表現したほうがよい。
- 活動報告書ではなくて、まず活動の総括をして、その詳細をその後で説明するという形のほうが、報告書としてインパクトがあると思うが、専門部会のほうで議論させていただきたい。
- このフィールドミュージアムは初めての試みだが、継続することが大事である。。
- 一過性のものでなくて、今後ともずっと続けていくのが、文化の面で重要である。。
- 継続するために、事前に準備をする。
- それぞれの団体はもちろん準備するが、コーディネーション、あるいは交通網だとか、あるいは参加者の反応等、どういうふうにして受けとめていくかという、事前の準備をもう今からいろいろやったりして、それも来年度、再来年度のことを考えたりという時期だと思う。
- 最初は試みだったから、ともかくまずやってみようとして進めてきたので、もちろん課題も出てきたが、それも含めて既に取りかかる必要がある。
- いわゆる文化だけではない、文化団体だけではない連携という部分の強化として、企業があたり商店街があたり、学校関係はもちろんだが、どうやって連絡、連携を進めていくかという、大変重要な課題がある。
- それぞれの課題に適した専門的な方々の助力も必要だし、既に新宿文化センターや新宿未来創造財団のようにノウハウを持っているところをうまく生かしながら、いろいろな方の協力を得て、進めていくということが大事である。
- 今回のフィールドミュージアムの試みの評価や、それから今後の展望というか、注文というか、新しい方向性も大変重要なことだと思う。
- この意見交換の場も、大変これからは重要だと思うので、これらの意見はこれからのフィールドミュージアムの発展、将来に向かって生かしていく。
- 会議の報告書の取りまとめにも、具体的にいろいろ事務局とも相談しながらまとめて

いきたい。そのことも含めて、専門部会ではしっかり意見の整理を行っていただきたい。

3 次回日程について

第6回振興会議では、平成24年6月頃を開催することとし、詳細な日程や会場等については後日事務局から連絡することとした。

4 閉会

会長のあいさつをもって、午後3時30分に閉会した。